

第2回地区庶務担当理事連絡協議会

と き 平成22年5月26日（水）午後2時30分～

△森会長挨拶

森会長は挨拶の中で、「厳しい国家財政の下、診療報酬改定後も医療状況の改善は見られず厳しい状況である。今回の事業仕分けがパフォーマンスに終わらないよう、財源確保に向けて注視していきたい。また、参院選挙においては、医師の国会議員候補が少しでも多く当選することが、社会保障制度を充実させる大きな力となるのでは非ご協力いただきたい。新会館は8月末完成予定で、10月上旬に引っ越し、10月の庶務担から新会館で開催することになるのでご期待いただきたい」と述べた。

△報告ならびに協議事項

1. 最近の中央情勢について（坂東理事）

4月下旬～5月下旬にかけての社会・医療保険状況について説明した。

2. 麻しん臨床診断時における検査診断の協力依頼について（藤田理事）

京都市から「確実な麻しんサーベイランスの実施」を目的に京都市内の医療機関対象に協力依頼があった、「麻しん臨床診断時における検査診断」について、具体的な検体採取方法等を説明し、各地区医での周知徹底を依頼した。（京都医報6月1日号地域医療通信参照）

3. 新型インフルエンザ対策の教訓について（各地区医師会の意見）（藤田理事）

平成22年度近医連定時委員総会第2分科会資料作成にあたり、各地区医からの詳細な報告により作成できた「新型インフルエンザ対策の教訓について」の内容を説明するとともに、各地区医の協力に対して謝辞を述べた。また、新型インフルエンザ対策の喫緊の課題は「ワクチン在庫の取扱い」であり、現段階で国は「引き取らない」という姿勢であるが、今後日医や近医連を通じて「ワクチン在庫の引き取りを求める要望書」を国へ提出する予定であることを報告した。

4. 第36回京都医学会について（小野理事）

今年度は9月26日（日）に「第36回京都医学会」を開催することを紹介し、会員各位の積極的な参加と一般演題への応募を呼びかけた。また、今年度から演題申込が、インターネット上で受付可能となったことを報告し、利用を呼びかけた。（京都医報5月15日号付録参照）

5. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）

6月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、多数の参加を呼びかけた。

7. 地区からのご意見・ご要望

舞鶴医師会から、「トリガーポイント注射の麻酔日」「画像診断の撮影部位」等の記載漏れに対する支払基金の対応改善について要望が出され、「府医から早急に基金と国保に今後の対応策について交渉を申し入れる」と回答した。